

UP (University Partnership) クラス

UP クラスは、高大連携を中心としたプログラムで、大学の先生や企業でお勤めの方をお招きし、本校がテーマに掲げる「環境」「開発」「人権」「平和」の4分野をさらに深められるよう授業をしていただくクラスである。

毎週木曜日の放課後を軸に、1～3年生の希望者を対象に実施し、2016年度は計24回の授業を行った。その一覧が下の表である。

回	日付	講師		内容
1	4/21	ガイダンス		
2	4/28	事前学習		平和
3	5/26	関西大学	小川 一仁 教授	経済学
4	6/2	創価大学	石井 秀明 教授 ※サテライト	平和
5	6/16	創価大学	石井 秀明 教授	平和
6	6/23	創価大学	石井 秀明 教授	平和
7	7/14	南カリフォルニア大学	藤井 大輔 博士	統計学
8	7/15	南カリフォルニア大学	藤井 大輔 博士	統計学
9	9/1	創価大学	佐々木 諭 教授	開発
10	9/8	創価大学	佐々木 諭 教授 ※サテライト	開発
11	9/15	創価大学	佐々木 諭 教授	開発
12	10/6	京都大学	山敷 庸亮 教授	環境
13	10/20	京都大学	山敷 庸亮 教授	環境
14	10/27	京都大学	山敷 庸亮 教授	環境
15	11/10	追手門学院大学	井出 明 准教授	人権
16	11/24	京都大学	学びコーディネーター	人権
18	12/14	アメリカ創価大学	エド・フィーゼル 副学長	平和
19	12/15	アメリカ創価大学	エド・フィーゼル 副学長	平和
20	12/16	アメリカ創価大学	エド・フィーゼル 副学長	平和
17	1/12	毎日新聞社	鳴神 大平 氏	人権
21	1/19	創価大学	神立 孝一 副学長補	人権
22	1/26	創価大学	神立 孝一 副学長補	人権
23	2/2	創価大学	神立 孝一 副学長補	人権
24	2/16	かたの環境フェスタ市民会議	山本 光二 氏	環境

【経済学：ゲームで学ぶ経済現象】

2016年5月26日(木)

講師：関西大学社会学部 小川一仁 教授

関西大学のKan-Dai1セミナーのプログラムから、本年度は、社会学部の小川教授をお招きし、「ゲームで学ぶ経済現象」のテーマで開催した。

まず、美人当てゲームでは男子生徒が選んだ女優を女子生徒が推理して当てるといふもので、惜しいところで一致しなかった。この実験は大学でもされており、今回を含め7回中3回一致を見たということだった。次のゲームは数字を当てるゲームで、各々が1～100の任意の数を選び、その平均に3分の2をかけた数を選んだ人の勝ちといふもので、2回行い、数値の違いを見てみると、1回目と2回目とで予測の階層が1段深まっていることが分かった。

2つのゲームを通して、他人の行動をどう予測するかが大事であることを学んだ。

美人当てゲームは、株式の売買をもとに作られたものであることを明かされ、株式で儲けるためには、自分の好みの株を買うのではなく、他人の行動を予測して株価が上がりそうな株を買うことが必要であることを教えていただいた。

また、具体例としてファストフード店の出店について考察し、ゲーム理論が実経済を動かしていることも学んだ。

講演後の質問に答えるかたちで、今回のゲームは人が「合理的かつ自己的」ならばという前提で考えられたものであり、実際の社会が上手く機能しているのは「合理的かつ利他的」「合理的かつ互恵的」な人がいるおかげであることも説明していただいた。

経済学の最新の研究を紹介していただき、社会学や経済学の奥深さを体験できる講義となった。



<生徒の感想>

- ・ゲームを通してこんなに深いところまで分かるなんて凄いなと思いました。
- ・自分の知識や主観だけでは、問題解決できないことを学びました。
- ・経済というとても難しいイメージでしたが、ゲームをしながら楽しく考えていくことで、とても身近に感じ、経済活動の奥深さを感じました。
- ・他者との兼ね合いが大切であり、それが人間関係にも繋がっていくのだと感じました。
- ・理論だてしていくこと、根拠をもって考えることは面白いなと思いました。
- ・経済と人間の心理や論理が深く結びついていて面白いなと思いました。

【平和：「軍縮・開発・平和」を考える】

2016年6月2日(木)、16日(木)、23日(木)

講師：創価大学平和問題研究所 石井秀明 教授

第1回目は創価大学と中継を結んで実施。第2回、第3回は来校していただき直接講義をしていただいた。

2日の第1回目は、さまざまなデータを使って、世界の現状を具体的に確認し、グラフから読み取れることなどを確認した。また、世界銀行の世界開発報告 2000/2001 の貧困者のとらえ方を通して、貧困は所得の低さというよりも、富裕者にとっては当たり前の行動と選択という基本的な自由が欠落していることであり、様々な変化に対してきわめて脆弱であるということを学んだ。

そして、「他者の尊厳を守るなかで、自分の尊厳が光り輝いていく」という姿勢で学びを深めていくことが大切であると教えてくださった。

16日の第2回目は、軍縮についての講義を行ってくださった。軍事費に予算を使うことにはメリットがないわけではないが、「軍事費は非生産的である」ことを示され、「機会費用」の考え方を通して、途上国が軍事費に多大な予算を使用することは、マイナスの機会費用が発生していると考えられるとしたうえで、軍事優先の資源配分が、人的資源、開発資源を枯渇させ、硬直した社会経済構造をもたらすことを教えていただいた。

23日の最終回は、まず、ジョディ・ウィリアムズのTED講演を見て、世界平和に向けた現実的なビジョンを整理した。また、国連のSDGsが「誰も置き去りにしない」世界の実現を掲げていることを紹介された。そして、貧困の撲滅のためには、軍縮・開発・平和をリンクさせなければならないことを力説された。さらに、「国家の安全保障」から「人間の安全保障」への転換が必要であることを示された。

地球市民の資質は、「智慧」「勇気」「慈悲」であることを強調され、21世紀を「生命尊厳の世紀」にするためには、関西創価学園の信条である「他人の不幸の上に自らの幸福を築くことはしない」という新しい地球倫理を確立するために、どう行動すればよいかを考えていってほしい、と期待を寄せてくださった。



<生徒の感想>

- ・たまたま生まれた国や環境によって、「命の格差」がおこっているという事実を知って衝撃を受けました。
- ・「人間として生きる」に格差があることは絶対にあってはならないことだと思いました。
- ・今日の講義で最も印象に残っているのは、「兵隊の数よりも教師の数を増やす」という言葉です。
- ・平和の定義について再確認しなければならぬと感じました。
- ・無関心は最大の悪を生じる。難民や本当に苦しんでいる人たちがこの世にいる限り私は幸せではないという価値観を大事に、これからの高校生活を過ごしていきたい。

【統計学：数字を武器に世界で戦う！】

2016年7月14日(木)、15日(金)

講師：南カリフォルニア大学 藤井大輔 博士（本校28期卒業生）

1学期末のUPとして、2日間連続講座として開講した。



14日の第1回目、冒頭、統計学が「データ(数字)から何らかの関係性や法則を見つける技術」であり、あらゆる分野で使われるととても有用な道具であることを教えてくださった。さらに、モンティホール問題をクイズ形式で紹介してくださるなど、確率の有名問題を紹介しつつ、統計の土台となる確率を身近に感じるお話となった。

また、高校数学で学習するレベルの統計学の確認から始まり、具体例を通しながら、分布の読み方を教えてくださった。難解な計算等を使わずにエピソードを交えながらの講義に数学が苦手な生徒も楽しく理解することができた。

また、ご自身の経歴でもあるハーバード大学やシカゴ大学の違いなども教えてくださり、海外の大学への興味を深めた生徒も多くいた。

15日の2日目は藤井博士の専門である「経済学」をテーマに講義。経済学とは、お金儲けのための学問ではなく、「限られた資源を最適に使う人間の行動を研究する」学問であるとの説明から始まった。

「相撲に八百長はあるか？」を研究しているアメリカの統計学者の話を紹介されるなど、生徒たちの興味を引く話題も交えながらの分かりやすい講義であった。

また、ノーベル賞を受賞した経済学者の素顔や研究内容も分かりやすく紹介して下さり、世界の発展、開発のためには経済が必ず必要になるということも学ぶことができた。



<生徒の感想>

- ・「統計学」のことは知りませんでしたが、ゲームを通して興味がわいてきました。恭家に帰ったら調べてみたいです。
- ・統計学は生きていく上で役に立ち、ないとすごく不便だなと実感しました。
- ・講義を聴いて、ますますアメリカに行きたくくなりました。
- ・「経済学」は、「限られた資源を最適に使う人間の行動を研究する学問」と言われると、すごく分かりやすかったです。
- ・何より一番驚いたのは、藤井先生がノーベル賞受賞者のもとで授業を受けていたことです。
- ・ナッシュ均衡の「相手の行動が自分の行動によって変わる」という考えが面白いと思った。

【開発：開発－貧困削減のための取り組み】

2016年9月1日(木)、8日(木)、15日(木)

講師：創価大学看護学部 佐々木諭 教授

第1回と第3回は本校で直接講義していただき、第2回目はTV中継で講義していただいた。

1日は、「開発－貧困削減のための取り組み」のテーマで、生徒の意見を募りながら、世界には共通の豊かさと貧困の定義と指標があり、様々な国際協力・支援により、貧困は減少したが、貧困の悪循環により、発展から取り残され、格差が広がっている国や人たちがいることを教えていただいた。SDGsが掲げる誰も取り残されない世界の達成が今後の課題であることを確認した。



8日は、「生命の格差－健康と開発」のテーマで、5歳未満児死亡率と妊産婦死亡率の格差を取り上げ、世界では生命に格差が生じている現状を学び、その解決策を考察した。

15日は、「将来の課題－持続可能なための開発」のテーマで、開発というのは歴史的に変遷してきており、パラダイムとしては経済主体から人間にフォーカスする、さらに一人一人の個人が主体者となるように変化してきていることを学んだ。そして、開発に関して私たちが持つべき理念として、「他国の人々の犠牲の上に、自国の幸福や繁栄を追い求めないこと」が重要であることを教えていただいた。

<生徒の感想>

- ・本日の講義で、国の発展と一人一人の発展は全く違うということが分かりました。そして、「誰も取り残されない」という言葉が、本当にキーワードだと感じました。
- ・今まで何となくしか捉えていなかった開発や貧困の問題について深く考えることが出来ました。
- ・こうして「知る」という教育を受けられない方々のために、私たちが出来ることはまだまだあるのだろうなと思いました。
- ・生命の誕生から成長という大切なプロセスに、多くの隔たりがあることを学びました。今後も、自ら考えて学びを深めていきたいと思います。
- ・国連のMDGs、SDGsを1度見直してみようと思いました。そして、ユニバーサル・ヘルスシステムのことを勉強してみようと思いました。
- ・「人間の安全保障」という言葉を知り、生命の価値を平等にするという視点からも、教育が与える影響、そしてその重要性は大きいと思いました。

【環境：水惑星地球】

2016年10月6日(木)、20日(木)、27日(木)

講師：京都大学大学院総合生存学館(思修館) 山敷庸亮 教授

6日は、太陽系の惑星群と準惑星の概要について講義して頂いた。地球が水惑星として存在するためには、多くの条件が必要であることをデータから教えて頂いた。私たちが生活している地球が、かけがえのない天体であることを痛感した。また、山敷教授が2016年9月に開発された、太陽系以外の惑星についての画期的なデータベースを紹介してくださり、系外惑星についてもお話しして頂いた。



20日は、科学的知見から温室効果について講義して頂いた。温室効果ガスの概要や、温室効果ガス排出のメカニズム、また、温室効果がさらに進んだ場合、暴走温室効果が起こると想定されており、地球がどのような状態になっていくのかをお話しして頂いた。一つ一つの身近な行動が、私たちが住む地球の未来を決めていくことを学んだ。



27日は、水資源工学・水環境工学の専門家である山敷教授が、長年取り組んでこられた研究について講義をして頂いた。山敷教授が訪問された世界各地の動画を通して、各地で人々が直面している水質汚染の現状を教えて頂いた。

3日間の講義を通して、私たちが住む地球が水惑星として存在することの不思議さや、私たちが直面している様々なグローバルイシューが、喫緊の課題であることを認識し、私達は何に取り組むべきなのかを考えさせられる講義となった。

<生徒の感想>

- ・宇宙は想像している以上にスケールが大きく、地球と大きく違う星であふれていて、地球という星に住んでいる私たちがすごいということを改めて感じました。
- ・今、暴走温室効果の前兆（地球温暖化や台風の大量発生）が起きているということで、人類の生存危機に関わることなので、自分たちができることを考えて生活していかなければいけないと思った。また、小さなことでもいいから、何かしていこうと思う人が、増えていってほしいと思います。
- ・「科学技術は必ずしも人を幸せにするとはいえない」という言葉が心に響きました。

【人権：ダークツーリズムという旅】

2016年11月10日(木)

講師：追手門学院大学 井出明 准教授

「ダークツーリズム」の研究をされている、井出准教授をお迎えし、講義を行って頂いた。事前学習として、井出准教授が出演された番組の視聴と新聞記事を読み、当日を迎えた。

ダークツーリズムは、1996年にイギリスの学者が提唱したもので、戦争や災害をはじめとする人類の悲しみを廻る旅のこと。ダークツーリズムは、現場の持つ圧倒的な力を体感し、記憶を受け継ぐことで同じ悲劇を防ぐことを目的としており、人格を形成する上で、あらゆるものには「光」と「影」があることや、悲しみを知ることの重要性を教えて頂いた。



次に、典型的なダークツーリズムの場所としてヒロシマの話をつきかけとして、広島と長崎に原爆が投下された経緯が違うことや、「核」というキーワードから「原発事故」のお話へという形で、井出准教



授が「キーワード」をもとに、アウシュビッツ、スイス、長崎、サイパン、網走、第五福竜丸、ゲルニカなど、高校生も聞いたことがある場所で、井出准教授が実際に体験されたダークツーリズムについて、現場に足を運んだからこそわかったことを多面的に教えて頂いた。

また、遠くに行かなくても身近な場所でダークツーリズムを行うことができる、大阪府内や近畿圏内の施設を教えて頂いた。

<生徒の感想>

- ・「百聞は一見に如かず」知識や想像だけではなく「現場」へ行くことも大切に、グローバルリーダーを目指して、物事を考えていきたいです。
- ・「悲しみを知ることは人格を作る」という価値観をもって、その「影」を未来の「光」へつなげていく努力が必要だと思いました。
- ・負の歴史には影だけではなく光の部分もあると知り、少し勇気が出ました。
- ・ダークツーリズムを実際にしてみたいと強く思いました。

【人権：あなたはテストにアンキパンを使いますか？】

2016年11月24日(木)

講師：京都大学大学院文学研究科 井保和也 研究員

本年度も京都大学の「学びコーディネーター」事業を申し込み、京都大学大学院の井保和也研究員をお迎えし、授業を行って頂いた。授業では、アンキパンを通して道徳的な問題を議論することを体験し、「エンハンスメント」について考えた。

スマートドラッグを含め、人間の能力などを科学技術的な介入によって増強することを「エンハンスメント」という。

はじめに、ドラえものの道具であるアンキパンを食べると、転写された内容を確実に暗記することができることが紹介された。もしアンキパンを入手することができれば、自分がテストにアンキパンを使うかどうかを考え、話し合った。次に、そもそもアンキパンを使ってもよいのかについて話し合った。



様々な意見が活発に交わされ、アンキパンをきっかけとして、議論が深まっていった。その後、社会的価値と人間的価値の観点から、反対派と容認派の意見を紹介して頂いた。そして、再び、自分がテストにアンキパンを使うかどうかを議論した。

続けて、「アンキパンは実在する」と講師の方がお話されると、生徒からは驚愕の声が上がった。その例として、スマートドラッグがあり、効果は科学的には実証されていないが、アメリカ等ではすでに流行していることが紹介された。

一つの事柄を多角的に捉え、議論を通して内容を深めていく楽しさを学ぶことができた。

<生徒の感想>

- ・様々な角度からアンキパンを議論したことがとても楽しかったです。本日はとてもおもしろい講座をありがとうございました。
- ・アンキパンについてこんなに話したのは初めてでした。毎日学校の授業がこういうテーマだったらおもしろいなと思いました。
- ・エンハンスメントの問題は身近な道徳的問題なのに、今まで考えてこなかったもので、これから考えていこうと思います。
- ・アンキパンを使わなくていいように努力したいと思った。

【平和：Globalization：A Force for Peace or Conflict?】

2016年12月14日(水)、15日(木)、16日(金)

講師：アメリカ創価大学 エド・フィーゼル 副学長

学期末恒例となった連続講座。12月はアメリカ創価大学からエド・フィーゼル副学長をお迎えして、3日間の連続講座として開催した。

1日め。まずはご自身が「貧困をなくしたい」との思いからハーバード大学を目指したこと。様々な苦難を乗り越えながらイエール大学に入ったこと、など赤裸々に語ってくださった。

また、生徒たちに「あなたの目標は何ですか?」と問いかけられ、夢・目標の大切さを訴えた。「夢というのは、暗闇の中でも光り続けるランプのようなもの」との言葉は、多くの生徒たちの心に刻まれ、皆が夢や目標について改めて考える機会となった。



2日めは、グローバル化について、G00ds・Money・People という3つの観点から、今の世界の状況を教えてくださいました。そして、グローバル化自体にも良い点と悪い点の両方を含むことが確認された。さらに生徒たちが考えを発表する形式で進められ、活気にあふれる授業となった。

最後に、価値観の問題として、Greed・Anger・Ignorance という3つの悪が High Grain Prices・War・Illnes を生んでしまう。そうしないためにも、Compassion・Courage・Wisdom の3つを基調とした世界にすることが SUA の存在理由であると語った。

3日めは、前日に質問し切れなかった生徒の質問に答えるところから始まり、その誠実なお人柄に皆が感銘を受けていた。そして、「世界市民」になるためには何が必要なのか、について教えてくださいました。また、創業者・池田先生がライナス・ポーリング博士と対談した場に同席したときのエピソードに皆が驚いた。最後に、SUA がグローバルリーダーを育成するために挑戦していることを通して、皆がグローバルリーダーとして成長してほしいと期待を込めて講義を締めくくった。

<生徒の感想>

- ・たくさんの人との出会いの中で、自分の目標や夢を持つ大切さが分かりました。自分の力を、ここまですべて決めてしまうことが一番いけないことなんだろうと思いました。
- ・世界市民への意識や考えを深めることができました。日本出身、アメリカ出身などではなく、地球出身。私の故郷は、この地球。このような精神が大切だと感じました。

【人権：新聞ができるまで 一大震災と新聞】

2017年1月12日(木)

講師：毎日新聞社 編集制作センター 鳴神大平 部長

NIEの推進でも大きく活躍されている毎日新聞社の鳴神部長をお招きして開催した。

「新聞記者には4種類あります。ペンの記者・写真記者・編集記者 とあと1つは何でしょう？」

「新聞記者の7つ道具とは何でしょう？」とクイズを交えながら始まった授業に、生徒たちも楽しみながら活気あふれる雰囲気。新聞記者が常に10円玉を持ち歩いていることや、50年前は伝書鳩を使っていたという話に驚きの声が連続した。



続いて話題は震災報道に。関東大震災に始まり、阪神淡路大震災の話。そして生徒たちの記憶にも新しい東日本大震災。毎日新聞社のカメラマンが撮った写真に小さく人影が写っていることから、その人を追いかけて、助かっておられたエピソードを紹介。「記者はネタを追いかけているんじゃない。人を追いかけている。その人の喜びや悲しみ、怒りを記事にする」という言葉に、生徒たちは感銘を受けていた。

また、「記事の書き方」として5W1Hが基本であること。また、新聞記事が一番大事なことを初めに書く逆ピラミッド型であることを押し付けていただいた。続いて、事前課題として提出していた「桃太郎に見出しをつけると」「熊本地震の2枚の写真、どちらを載せるか」について、生徒たちの意見を紹介。1つの事象でも立場によって全く違う見出しになることを教えていただいた。



日常的に近くある新聞が、また違って見えるようになった講義だった。

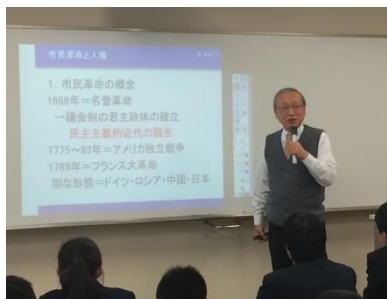
<生徒の感想>

- ・私は毎日、新聞を読もうと心がけていますが、やはりネットやテレビを使って情報を得ることの方が多くなりがちです。自分の興味のあるものだけでなく、その他の情報をはやくすることができる新聞を、これからも毎日読んでいきたいと思えます。
- ・新聞記者は人を追いかけて、その人の喜び、怒り、悲しみを記事にするという言葉が心に残りました。また、今日教えていただいた5W1Hをこれから作文やレポートを書くときに使ってみようと思えます。
- ・見出し1つや内容1つにも編集者の思いがすごく入っていると思うと、明日から新聞の見方が180°変わると思えます。記事を通して現場の人・新聞記者が読者に伝えたいことを、もっと読み取れるようになっていきたいです。

【人権：「人権」について考える】

2017年1月19日(木)、26日(木)、2月2日(木)

講師：創価大学経済学部 神立孝一 教授（副学長補）



3週連続講座として開催された1日め。「人権とは何か？」との問いかけから始まり、さっそく生徒たちに発言させながら話が展開していく。「人権」という概念自体が高々200年前に生まれたものであることを紹介され、17世紀の名譽革命に始まり、18世紀のアメリカ独立戦争、そしてフランス革命へと歴史を紐解きながら、単なる歴史の教科書の記載にとどまらず、当時の人々がどう感じたのか等に視点を置いて話が進められた。

2日めも「人権」という観点から歴史をたどった。その中で、配布された資料である「ヴァージニア権利章典」「アメリカ独立宣言」「人権宣言」に記載されている文言から、当時の人々がどういったことに不自由を感じていたかを読み取りながら解説して下さった。そして、「自由」と「平等」の二律背反について分かりやすく説明され、次回にディスカッションをしようと提案された。

3日めは、「自由と平等は両立できるのか？」をテーマに即興のグループをつくり意見交換。それぞれのグループに発表させ、皆の意見を共有した。どの意見も一理あり、しかし完全とは言い切れない意見ばかりで、何が正しくて何が間違っているのか、頭の中が大混乱した状態に。神立教授は「正解なんてないんだよ。みんなで一緒に考えていこう！」と優しく呼びかけられ、励まして下さった。



<生徒の感想>

- 最も頭の中がぐちゃぐちゃになった3週間でした。自由をとれば不平等になり、平等をとれば不自由が生じる。自由と平等は両立しうるのか。難題でした。少なくとも今、この瞬間の両立はあり得ないと思うので、基準はやはり自分自身だと思います。環境を「平等」にしたとしても、「自由」を感じられるかは自分次第です。私はいつも心の中に希望を絶やさず、太陽のような存在でありたいです。
- 歴史を「人権」という視点でみた経験があまりなく、とても新鮮に感じました。「どうして疑問に思わなかったのか？」と思うことばかりで、すごく面白かったです。
- 答えがないことを考え続けることの大切さを知りました。
- 先生の人柄に感動しました。教室に入られて開口一番、「皆に会いたくてワクワクしていたんだよ」と言われていて、すごい方だなと思いました。
- 学問をするのは何のためかを深く考えさせられました。理由はよく分かりませんが、とにかく心で得たものがありました。もっともっと成長し続けます。

【環境：木の声がきこえる】

2017年2月16日(木)

講師：日本樹木保護協会代表樹医 山本光二 氏

2016年度最後のUPクラスは、樹木医であり、かたの環境フェスタ市民会議の代表として本校の地元交野で活躍されている山本氏にお越しいただき講演をしていただいた。

冒頭、「私には師匠が2人います」と語られ、山本氏の父親と日本樹木保護協会創始者・山野忠彦氏のお2人を紹介。幼いころから弟子入りするまでのエピソードを紹介してくださった。特に山野氏は1900年生まれで、山本氏とは50歳近くも年が離れている。その中で築かれた師弟関係に、生徒たちも驚きを隠せなかった。



そして、「大阪以外から来ている生徒さんはおられますか？」と問いかけると、多くの手が上がり一人一人を指名。

「神奈川県です！」「逗子市のお寺にある樹がね・・・」

「長野県です！」「桜の木を治すために10年以上通いましたね」

「宮崎県です！」「宮崎には大きなクスノキがあつて・・・」

等々。その後も多数の生徒たちがそれぞれの地元を言えば、その地域でのエピソードを語ってくださった。日本全国あらゆる場所の樹を治して回っておられるお話に皆が感心した。

講演終了後も、個別にお話を伺うために生徒たちの列が。その一人一人に丁寧に、じっくりとお話をしてくださる誠実の人柄にも生徒たちは感動していた。

また、3種類のご著書を3冊ずつ、図書館に寄贈してくださるなど、生徒たちに大きな期待を寄せてくださった。



<生徒の感想>

- ・私たちは植物の立場からも現在の環境問題を考えていかなければならないと知りました。私もそのような見方で地球の問題や自分のライフスタイルを見つめなおしていこうと思いました。人間は植物の生命力、どんな環境にも適応してそのサイクルを何千年も続ける力を学んでいかなければいけないと思いました。
- ・「休んでも良い。疲れたら休みなさい。ただ、妥協をしてはいけない」「人の気持ちの分かる人間に」とのお話は、すべてのことに通じることだと思いました、私も最後まであきらめずにやり抜く力を身につけていきたいです。

◆年度末アンケートより◆

3月、受講生徒を対象にアンケートを実施。

自分自身の変化についての5つの質問項目を1~4の4段階(値が大きいほど強い)で答えてもらった。以下の表がその結果である。

	4	3	2	1
1. 自分自身が成長した、視野が広がったと感じる。	69%	29%	2%	0%
2. 世界で起こっている様々な問題への関心が高まった。	79%	19%	0%	2%
3. 国連が提唱する MDGs、SDGs の理解が深まった。	29%	45%	21%	5%
4. ものごとを色々な角度から見たり、考えたりすることができるようになった。	50%	50%	0%	0%
5. 地域社会や国際社会に貢献していきたいという気持ちが強まった。	69%	26%	5%	0%

「3. 国連が提唱する MDGs、SDGs の理解が深まった」については、高評価（3 もしくは 4）が 74%と全体の 4 分の 3 にとどまった。UP クラスの講師としてさまざまな分野の方をお迎えしたいとの考えが強かったせいか、MDGs や SDGs を UP で学ばせようとの意識が薄かったと反省している。

今後は、その意識も持ちつつ、さらに他分野の講師を招けるように尽力したい。

3. 以外の 4 項目についてはほぼ全員が高評価であった。特に「4. ものごとを色々な角度から見たり、考えたりすることができるようになった」は高評価が 100%であり、生徒たちのものの見方や考え方を広げることに成功したと自負したい。

来年度以降も、さらによりよいものにしていきたい。